

所沢市脱炭素経営ネットワーク会議（本部会議）

令和 7年 4月23日（水）

目的

市内事業者が「脱炭素」を成長の機会と捉え、事業活動を脱炭素にシフトし、市域の二酸化炭素排出量の削減を図る。

市内大手事業者や業界団体の代表がメンバーとなり、各企業・業界の課題や現状、取組方針等を共有する。

所沢市 環境クリーン部 マチごとエコタウン推進課

▶ ①令和 6 年度の事業報告

②今後の方針

①知る

②測る

③減らす

①知る

令和6年度実績①

～昨年度は2回開催！～

脱炭素経営 ネットワーク交流会

概要

市内事業者と再生可能エネルギー・省エネ等に技術やノウハウを持つ企業とのネットワーク構築を図るための交流会を実施。

1回目

日時：令和6年7月4日（木）14時～

場所：所沢市役所 8階 大会議室

参加企業：52 団体 133 名程度（原則、各団体4名まで）

内容：

第1部 （独）中小企業基盤整備機構による講演

「カーボンニュートラル実現に向けて ～中小企業の取組みと支援策～」

第2部 マッチングイベント

第3部 交流会

2回目

日時：令和7年2月12日（水）13時30分～

場所：所沢市役所 8階 大会議室

参加企業：44団体 94名程度（原則、各団体2名まで）

内容：

第1部 e-dash(株) による講演

「脱炭素化への動向と企業がCO₂可視化に取り組む意義」

第2部 マッチングイベント

第3部 交流会

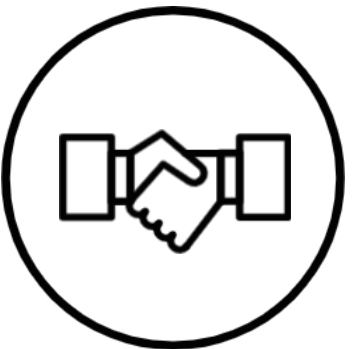
脱炭素経営ネットワーク交流会 開催後アンケートより抜粋



～ 第1部 講演 ～

1回目・他社の先進的な事例や支援内容に関する情報も得ることができた。

2回目・講演は非常にわかりやすいものでした。また、可視化事業の参加団体様のお話から、可視化サービスの使い勝手が良いものであったことが伺えました。



～ 第2・3部 マッチングイベント・交流会 ～

- ・事前にマッチング希望を確認いただけることは、ありがたいです。
- ・バイヤー数が少なくセラーのほうが多い状況だった（参加者の動員に苦勞されたことが伺えました）。動員は所沢商工会議所など各組織と連携して進めてもよいかもしれません。



～ 全体を通じて ～

- ・今回の取組は非常に社会的価値の高いものだと思いますので、より多くの企業様を招待して開催すると更に良い会になるのではないかと思います。

①知る

令和6年度実績②

～ グランエミオ所沢にて開催！～

ところざわ ゼロカーボン展

概要

市内事業者が行ってきた脱炭素経営の取組等を展示・発表できる機会を設けることで、事業者の更なる脱炭素化の促進を図るための展示会を実施。

詳細

日時：令和7年2月22日（土）10時～21時
場所：グランエミオ所沢2階 ノースプラザ

内容

- ①脱炭素経営に積極的な企業等の取組紹介
協力団体：・武州ガス(株)
(順不同) ・(株)木下フレンド
・パナソニック(株)エレクトリックワークス社
・(株)ところざわ未来電力
・リコージャパン(株)
・所沢環境市民の会
- ②市内の小中学生が描いた環境ポスターの展示
- ③間伐材コースターへの絵入れ体験
※運営：武州ガス(株)
- ④太陽光と手回しの発電量を比較するソーラートレイン
※運営：パナソニック(株)エレクトリックワークス社
- ⑤市の展示
太陽光・蓄電池コーナー、家庭の省エネコーナー等

①知る

令和6年度実績③

～ 学生・市民との協働 ～

・市民フェスティバル

・カードゲーム

「2050カーボンニュートラル」

・第45回市民フェスティバル 環境ブース

概要

事業者、学生、市民団体、市で協力して、市民等の来場者さまに環境問題と向き合っていただく機会を創出。

詳細

日時：令和6年10月26・27日（土日） 10時～16時

場所：所沢航空記念公園

協力企業：武州ガス(株)

出展内容：間伐材コースターへの絵入れ体験 / 環境巨大すごろく / ゼロカーボンスタンプラリー

・カードゲーム「2050カーボンニュートラル」

概要

事業者・学生・市民で集まり話し合うことで、カーボンニュートラルへの理解や気づきを得る機会の創出。

詳細

日時：令和6年12月20日（金） 13時30分～17時

場所：所沢市役所 6階 604会議室（参加人数：35名）

ファシリテーター：早稲田大学 人間科学部 平塚 基志 教授

協力企業：飯能信用金庫 / 埼玉りそな銀行(株) / 武州ガス(株) / (株)ところざわ未来電力 / FOURE ほか 3社

内容：現実社会を模倣し、チームの活動や他チームとの交渉を通じてカーボンニュートラルを目指すゲーム

2024/12/21

①知る

令和6年度実績④

～市内事業者へのアンケート～

脱炭素の取り組みに関する意識調査

2024/12/21

概要

市内に本店又は支店を有する所沢市競争入札参加資格者名簿登録事業者を対象に、経営上の課題や省エネ導入等に関するニーズを把握するための意識調査を実施。

詳細

日 時：令和6年9月30日（月）から2か月間
調査方法：アンケートにて電子申請・郵送のいずれかにより回収
回 答 数：247者／403者（回答率：61.3%）
協力団体：所沢市建設産業連合会 ほか
事 務 局：契約課・マチごとエコタウン推進課

また、市の脱炭素施策にご協力いただける事業者は「所沢市脱炭素経営賛同宣言」を事業所等に掲示。

所沢市脱炭素経営賛同宣言



〇〇〇〇株式会社

わたしたち企業も、所沢市と共に
ゼロカーボンシティの実現に向け
脱炭素経営に取り組みます

市ホームページ
調査結果↓



①知る

②測る

令和6年度実績⑤

～ 市内10事業者が参加！～

所沢市二酸化炭素 排出量可視化事業

概要

市内の中小企業・個人事業主を対象に、事業活動によって排出される二酸化炭素量を可視化し、削減に向けた提案や支援を行う実証事業。

詳細

対象：市内事業者

定員：10社

期間：令和6年9月2日(月)～令和7年2月28日(金)

内容：システムを活用したCO2排出量の可視化

CO2排出量削減に向けた取組の提案及び支援
実施結果をとりまとめた報告書の提供

可視化支援実施：e-dash(株)

参加：日栄建設(株)・洋光建設(株) 他8社

(業種別)

建設業 3社

製造業 5社

サービス業 1社

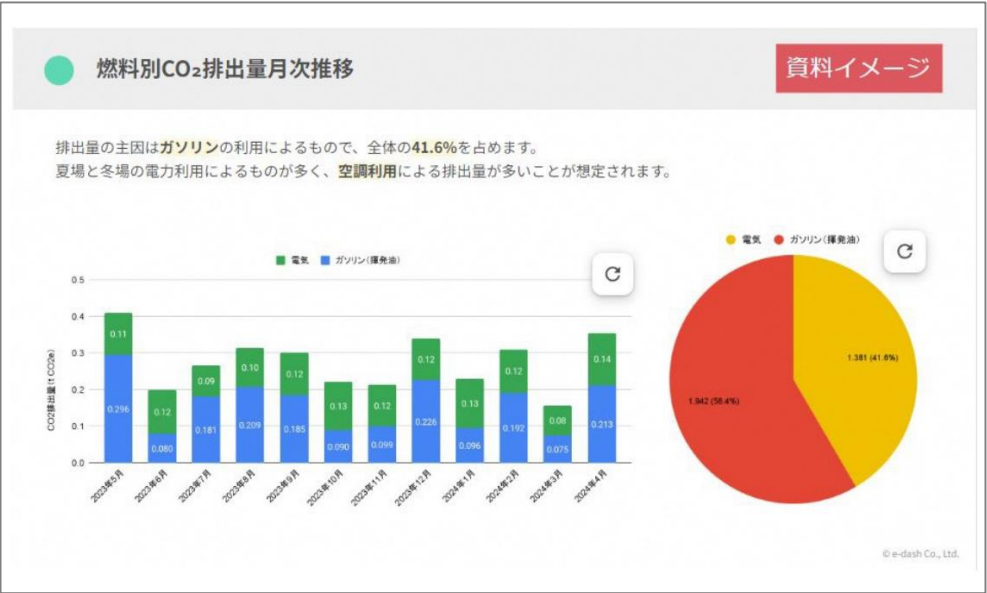
運輸・郵便業 1社

CO2排出量可視化支援の流れ



※e-dash(株)作成資料より抜粋

参考：削減提案のイメージ①



※e-dash(株)作成資料より抜粋

参考：削減提案のイメージ②



省エネの実施

省エネの余地がないか診断を実施し、空調や照明などの機器更新によりCO₂排出量を削減します。



電力契約の切り替え

排出係数の低い電力会社・料金プランに切り替えることで排出量を削減します。
(電気料金のコスト削減も検討可能です。)



カーボンオフセット

J-クレジット・ボランタリークレジットにより削減しきれないCO₂排出量をオフセットすることがきます。



環境証書の購入

FIT非化石証書・グリーン電力証書を活用することで電力の実質再エネ化によってCO₂排出量を削減します。



EV車両の導入

EV車両の導入によりガソリンによる排出量を削減でき、充電に要する電気を再エネに切り替えることにより、更に削減が可能です。



太陽光発電の導入

太陽光発電の導入により消費電力を再エネ化することでCO₂排出量を削減します。初期費用不要のPPAモデルか自社導入モデルがあります。

①知る ②測る ③減らす

令和6年度実績⑥

～環境省モデル事業～

地域ぐるみでの 脱炭素経営支援体制 構築モデル事業

概要

ダイアプラン5市、5市商工団体、飯能信用金庫、埼玉縣信用金庫が環境省から支援を受け、中堅・中小企業の脱炭素経営支援体制を構築するもの。

地域ぐるみ体制として実効性のある脱炭素経営支援を行うため、市と信用金庫が中心となって議論を深めた。

ダイアプラン圏域ゼロカーボン推進コンソーシアム（仮称）

自治体（ダイアプランZCCプロジェクトチーム）

狭山市・所沢市・入間市
飯能市・日高市

支援ツールの作成
勉強会の実施
表彰制度の検討
制度融資のあり方検討

経済団体

商工会
商工会議所

地域信用金庫

飯能信用金庫
埼玉縣信用金庫

課題・ニーズの吸い上げ

プッシュ型
企業訪問

脱炭素経営の重要性訴求

課題・ニーズの吸い上げ

脱炭素経営
支援

脱炭素経営計画策定支援等

支援対象

中堅・中小企業

主な事業の成果

詳細

「企業価値の向上」、「企業の稼ぐ力の向上」をテーマとして、脱炭素要素を取り入れた経営課題解決策を提示するための体制づくりや各種ツールの検討を実施。

【2種の支援ツールの作成】※次頁参照

飯能信用金庫・埼玉縣信用金庫と協議を重ね、主に金融機関が使用する2種の支援ツールを作成

- ①経営課題を聞き取り、脱炭素を切り口とした解決策を提案するためのツール
- ②事業者が気が付かないうちに実施している「実は脱炭素化に寄与する取組」を可視化するツール
※事例集を内包

【勉強会の実施】

金融機関職員、行政職員、商工団体職員を対象とした、脱炭素経営の基礎知識、ツールの使い方等を学ぶための勉強会を実施



勉強会-基礎知識編
約100名が参加



勉強会-ツールA活用編
約20名が参加

【企業訪問の実施】

飯能信用金庫狭山支店、埼玉縣信用金庫狭山支店の顧客企業の一部を対象として、2種のツールを活用した対話を試験的に実施。本年度以降、他地域での横展開を目指す。

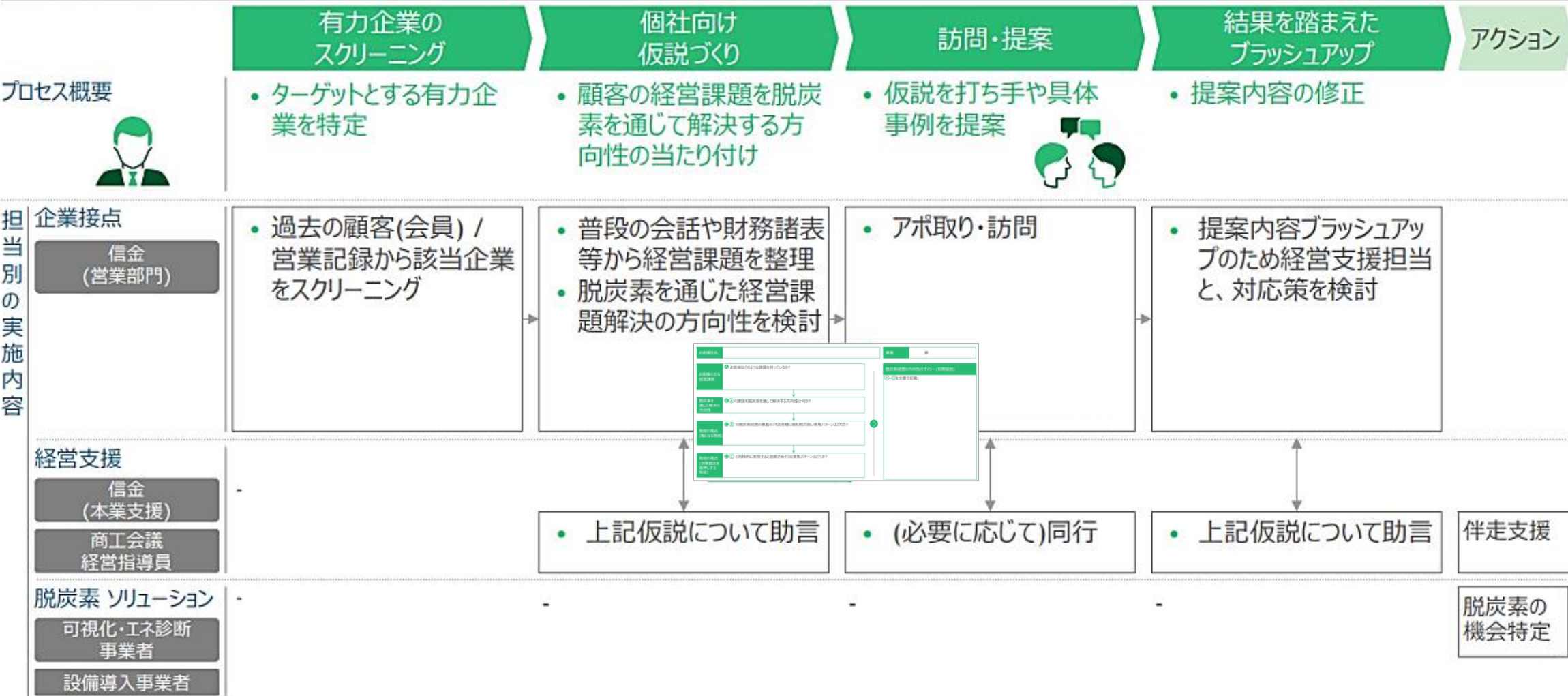
参考：支援アプローチと具体的なツール

本業支援担当者が活用し、支援ノウハウがほとんど確立されていない脱炭素経営を促すための支援ツール（①）及び、支店の営業担当者が活用し、既存の顧客支援を強化するための支援ツール（②）の両面からアプローチ。

変化の種類	ターゲット	主な支援者のイメージ・アプローチ方法			ゴール
企業の利益創出/基盤強化の機会創出	脱炭素は自社にはまだ関係ない/そこまで手が回らない認識 －取組のインセンティブ・リソースは弱い	ツール① 経営課題解決機会を引き出しツールによる実践	本部の本業支援担当者	➢ 普段の企業との対話や財務諸表等から経営課題を整理 ➢ 主要な経営課題の課題解決の切り口として脱炭素を通じて解決する方向性を仮説立て ➢ 仮説を基に企業と対話・議論を深める	経営者から、脱炭素を通じた経営課題解決の機会を引き出す（＝火をつける）。それにより、脱炭素を経営テーマとして“継続的”に実施する（＝脱炭素経営）動機を作る
脱炭素の取組のハードルの低さへの気づきから、取組みの拡大	脱炭素はなんとなくやった方が良 いと感じるが、コストや人を割いてまでやる意義は感じない －全く関心がない層ではない	ツール② 顧客の既に実施している脱炭素の取組をチェックリスト化し横展開の呼びかけ	支店の法人営業担当者	➢ 支援先が既に取り組んでいる脱炭素の取組を褒めつつ、チェックシートに基づき実施/未実施の取組を把握 ➢ 取組状況をレーダーチャートで可視化し、興味を喚起した脱炭素の取組領域を特定 ➢ 未実施の取組に対応したソリューションや事例を紹介・提案	支援先に脱炭素を身近に感じてもらい、まだ取り入れていない脱炭素の取組へ拡大する動機を作る

参考：ツール①経営課題から脱炭素を切り口に解決策を提案

地域企業の経営課題の脱炭素を通じた解決機会を導くため、事前に有力企業に対する仮説を持った上で会話する



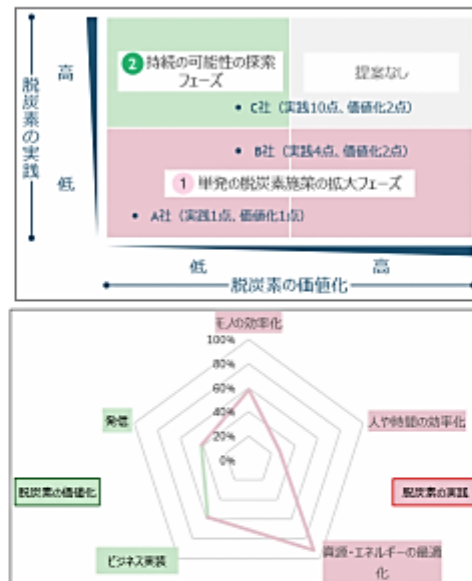
参考：ツール②「実は脱炭素化に寄与する取組」を可視化

3つのツールを活用し、顧客に新しい脱炭素の取組への関心を持っていただく

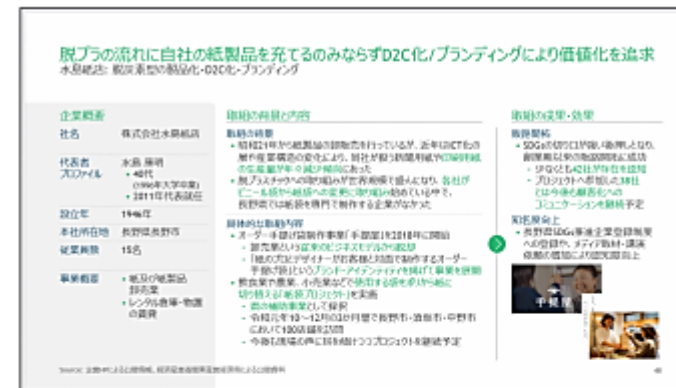
チェックリスト

[illegible]

2 軸マトリックス& レーダーチャート



事例紹介



- 中小企業でもよく見られる脱炭素に資する取組を纏めたチェックリスト
- 顧客がまだ気が付いていない「実は脱炭素だった」施策を掘り起こして褒める元ネタとして活用
- 加えて、「これも脱炭素だったのか」と気が付いてもらえるような会話を誘発する
- まず顧客が「単発の脱炭素の取組を展開するフェーズ」か、「既存の取組を"価値化"するフェーズ」かを明確に提示する
- その上で、顧客のカテゴリーごとの脱炭素取組状況をレーダーチャートで可視化し、顧客の興味がある脱炭素取組み領域を特定していく
- 前段で顧客が決めた提案の方向性に適する事例を紹介することで、顧客に取組を進める具体的なイメージやメリットを理解いただく

①令和 6 年度の事業報告

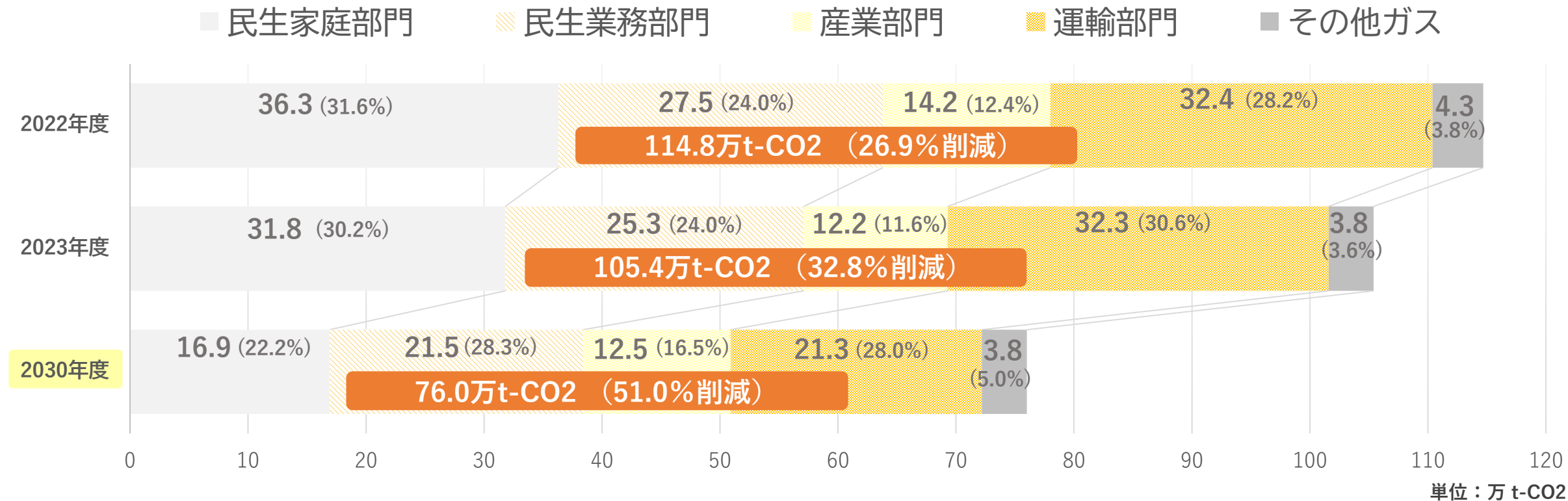
▶ ②今後の方針

①知る

②測る

③減らす

項目別温室効果ガス排出量の状況



目標：2030年度：約76.0万t-CO2 (51%削減) (2013年度比)

残り6年間で、さらに29.4万t-CO2 削減が必要

2ヶ年を通じて見えてきた課題

脱炭素経営の更なる機運醸成を図るため、中堅・中小企業に向けた、

- ①関心をもっていただくためのきっかけの創出 と、
- ②具体的な経営課題に踏み込むための仕組や体制づくり が重要。



今後の取組方針（予定）

①関心をもっていただくためのきっかけの創出

→交流会イベントを開催すること等により、参加者同士の新たな関係を築きながら、中堅・中小企業の脱炭素経営への理解と関心を促進する。

②具体的な経営課題に踏み込むための仕組や体制づくり

→環境省モデル事業で築いた連携体制（ダイアプラン5市、5市商工団体、飯能信用金庫・埼玉縣信用金庫）を主軸に、経営課題解決に繋げる支援策を横展開させる。



2050年までに
CO₂排出量実質ゼロを目指します